

高松市多肥地区 大規模雨水処理施設整備事業計画

(様式1)

項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	<p>高松市多肥地区周辺は、片側1車線の既存県道（太田上町志度線）沿線や私鉄駅を中心に、古くから家屋や商店等が密集している。本地区の南側では住宅地開発が急速に進み、農地等の雨水貯留機能が減少しており、本地区においても既存水路からの溢水が頻発していることから、今後の気象変動等を踏まえた浸水対策が急務である。</p> <p>一方この地区の下流に当たる太田地区では、平成20年度頃までに太田第二土地区画整理事業が施行され、二級河川・宮川の改修や下水道雨水幹線の整備を終えている。</p> <p>今回計画の大規模雨水処理施設（宮川雨水幹線）は、高松市公共下水道事業計画に基づき、都市計画道路（朝日町仏生山線）に□4200mm×2700mmの雨水きよを整備するものである。上流側に当たる県道バイパスに先行整備した仏生山第5幹線（□2300mm×2300mm）を本施設に接続・供用することで、当該地区の上流域からの雨水を別系統へ排水し、当該地区を含む下流域の浸水を改善・解消する施設であることから、地域住民からも早急な実施が待望されている。</p>
整備目標	<p>① 本計画における対象降雨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画における対象降雨：42.5 mm/h</li> <li>・目標とする理由：本市下水道事業計画における計画降雨強度であり、かつ、平成16年10月に高松市で記録した最大降雨 42.5 mm/h</li> <li>・ハード整備による整備水準の目標:42.5mm/h</li> </ul> <p>② 目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i) 生命の保護の観点：当該排水区に存在する災害時要配慮者関連施設の床上浸水を防止する。</li> <li>ii) 都市機能の確保の観点：整備水準内での降雨を適切に排除し、道路交通を始めとする都市機能を確保する。</li> <li>iii) 個人財産の保護の観点：家屋の床上浸水を防止する。</li> </ul> <p>③ ハード対策、ソフト対策及び自助の役割分担について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i) ハード対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>施設整備により 42.5 mm/h の降雨において浸水被害を防止することを目的とする。</li> </ul> </li> <li>ii) ソフト対策及び自助 <ul style="list-style-type: none"> <li>ハード整備における 42.5 mm/h を上回る降雨に対応するため、ソフト対策として、市の防災担当課において既に策定している内水ハザードマップや河川水位観測データなどを情報提供するとともに、市民の自助として、土のうの設置や自主避難訓練の実施により、物的・人的被害の縮小を図る。</li> </ul> </li> </ul>

項目	内容・施策等			
内水ハザードマップ策定状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>有</b> (平成26年7月策定済み)</li> <li>・ 策定予定 (令和 年 月末策定予定)</li> </ul>			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雨水渠の整備 延長 L=490m (口 4200×2700)</li> <li>延長 L=24.4m (口 2700×2700)</li> <li>延長 L=4.6m (口 2300×2300)</li> </ul>
			下水道管理者以外	
	ソフト対策	下水道管理者		
		下水道管理者以外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内水ハザードマップの作成・公表</li> <li>・ 河川水位観測情報の提供 (高松市危機管理課)</li> </ul>	
	自助	ハード対策		
		ソフト対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土のうの設置 (高松市河港課による資材提供)</li> <li>・ 自主避難訓練 (地域コミュニティ)</li> </ul>	

備考) 事業内容については主な施策について具体的な実施数量を記述

また、下水道管理者以外が行う施策については、道路管理者など実施主体、制度要綱等を具体的に記述

\* 下水道浸水被害軽減総合事業に該当する場合、既存の施設調書を別途添付すること

#### 年度計画 (百万円)

名称	令和2年度	令和3年度	・・・	令和5年度	計
雨水管渠	320.8	375.8	・・・	562.8	1259.4
計	320.8	375.8	・・・	562.8	1259.4

備考) 事業内容に位置づけた施設について年割額 (事業費) を記述。

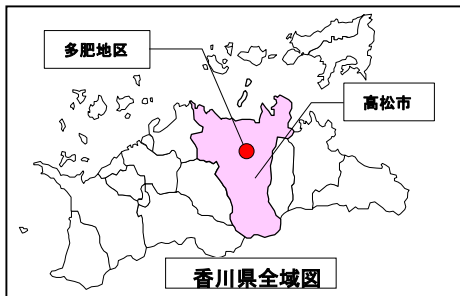
整備済のものは含めない。

項 目	内 容 ・ 施 策 等
整備効果	<p>&lt;事業評価の内容&gt;</p> <p>被害額：21,915百万円が削減される。</p> <p>B/C：2.5</p> <p>経済的内部収益率：100%以上</p> <p>&lt;その他の定量的な効果&gt;</p> <p>都市浸水対策達成率：44.3%（H30）→45.1%（R5）</p> <p>ソフト対策，自助の整備効果等：</p> <p>ソフト対策（内水ハザードマップや河川水位観測データなどの情報提供）と、市民の自助（土のうの設置や自主避難訓練の実施等）を適切に行うことで、この大規模雨水処理施設の整備効果をより高め、浸水被害を防止する。</p>
放流先河川との調整状況	<p>放流先である二級河川・宮川については、太田第二土地区画整理事業の実施に当たり、計画流量を満たすよう改修されている。</p>
その他	

# 高松市多肥地区 大規模雨水処理施設整備事業

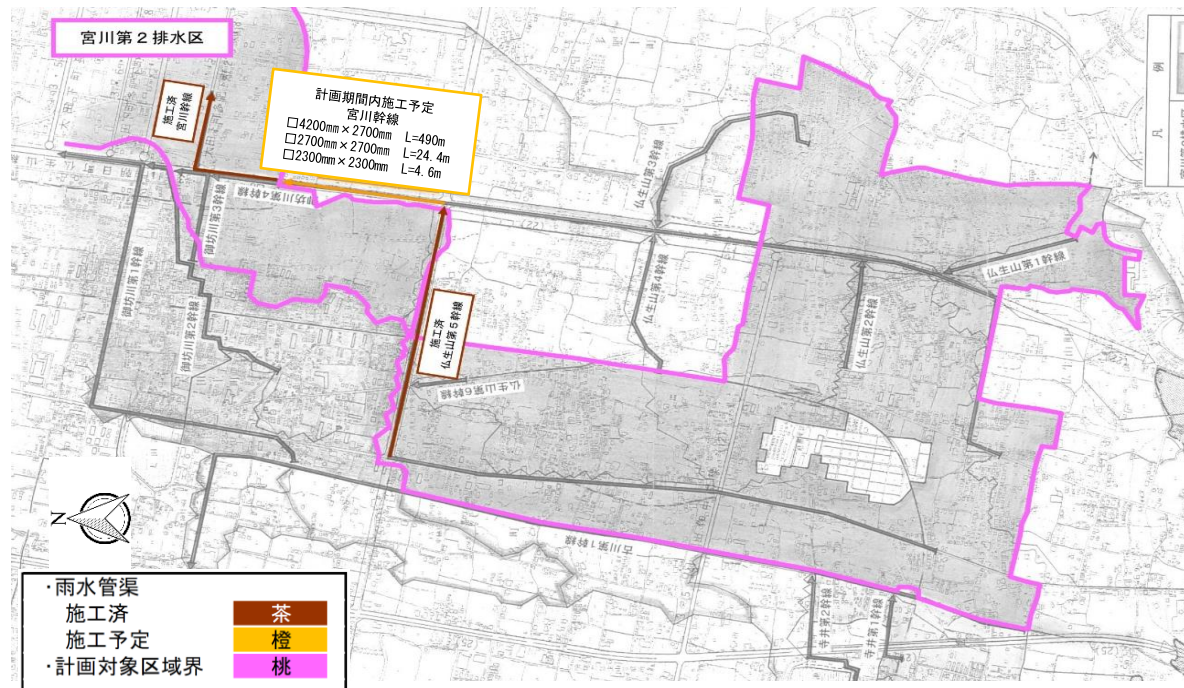
- 本箇所は、片側1車線の既存県道沿線や私鉄駅を中心に、古くから家屋や商店等が密集している地域である。
- 本地区の南側で、住宅地開発が急速に進んだことに伴い、農地等の貯留機能が減少し、流達時間が短くなったことにより、既存狭あい水路の溢水が頻発していることから、今後の気象変動等を踏まえた上で浸水対策が急務となっている。
- 概ね7年に1回程度起こりうる降雨に対して、雨水幹線を整備することで浸水被害を防止する。

## 位置図



## 事業概要

- 事業内容：雨水きよ□4200mm×2700mm L=490m、□2700mm×2700mm L=24.4m、□2300mm×2300mm L=4.6m
- 全体事業費：約12.594億円 ※工事諸費等を含む
- 事業期間：令和2年度～令和5年度



## 事業の効果

- ・概ね7年に1回程度発生すると考えられる降雨による浸水被害を解消する。
- ・浸水被害が軽減されることにより、区域内の生活環境の改善を図るとともに、新規企業立地、新市街地の形成など地域活性化に寄与する。
- ・道路等の地下空間を利用した施設であり、環境への影響は少ない。

B/C=2.5